

特色のある学びに関する取組紹介

学びの改革支援課

■ 松本市立丸ノ内中学校、開智小学校、田川小学校の取組

～市内3校が連携した「探究的な学習」の充実を図る教員研修の在り方～

本年度、松本市教育委員会は、県教委の学びの改革パイオニア校の指定を受け、松本市立丸ノ内中学校、開智小学校、田川小学校の3校にそれぞれ探究コーディネーターを置き、軽井沢風越学園との連携のもと、「探究的な学習」の充実を図る教員研修の在り方について、研究を進めている。

ここでは、互いの学校を行き来しながら、軽井沢風越学園のPBLの取組を学んだり、丸ノ内中学校の教科学習を基に、教科における探究的な学習の在り方について検討したりしている。

3校の探究コーディネーターが月1回定期的集まり、教師が児童生徒の探究を支え伴走することができるようになるため、教員自身が議論し、問いをもち、深めていくことができる、探究型の校内研修の在り方について検討し合う時間を設けている。

そこでは、県教育委員会と連携協定を結ぶ軽井沢風越学園の職員をコーディネーターとして招き、参加者自身が語り合いながら議論を深める探究型の研修を行っている。また、夏休みには、探究コーディネーターが中心となり、参加者同士が資料を持ち寄り、小学校の職員も加わって、中学校区として目指す探究的な学習の進め方について検討し合った。

これらの研修の成果を生かし、丸ノ内中学校では、自校の総合的な学習の時間の在り方と教師の関わり方について検討を重ね、2学期には、実際に生徒一人一人がテーマを決め、市内で探究的な活動を行う「1日忠恕の日」を行うなど、生徒自らが考え、行動する「探究的な学習」がスタートしている。



【3校の職員合同の研修会】



【中学生の活動の様子】

■ 小川村立小川中学校の取組

～GIGAスクール構想をけん引するDXリーディング校としての取組～

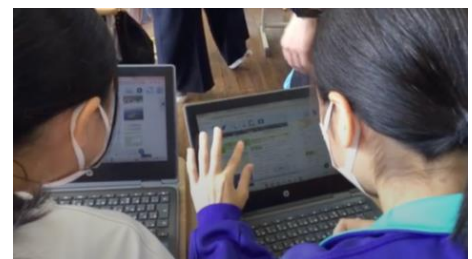
小川村立小川中学校は、県教委の学びの改革パイオニア校の指定を受け、DXリーディング校として、1人1台端末とクラウドを活用した先進的な実践に取り組んでいる。

小川中学校では、これまでのICT端末の活用を基に、クラウドを活用して生徒が相互に意見交換したり、各自がペースや学び方を選んで学習を進めたりする「個別最適で協働的な学び」が一層充実するよう、「生徒自身が学び方を決めていく授業」をテーマに、研究に取り組んでいる。

6月には、信州大学教育学部の佐藤和紀准教授を講師に招き、クラウドの活用についての研修会を行った。研修会以降は、「まずは自分たちから」ということで、職員同士が日常の授業についてチャットで意見交換を行うなど、クラウドの活用についての意識とスキルが向上してきている。

長野県ICT教育推進センターでは、現在、ICTの活用事例として、小川中学校の授業の様子を動画で撮影し、HPに掲載する準備を進めている。社会科の「近畿地方の地方部の人口が増加している理由」について追究する授業では、各自が仮説を立て、裏付けとなる資料をインターネットで収集して持ち寄り意見交換したり、クラウドに書き込まれた意見を参考に仮説を検討し直したりするなど、生徒がICT端末を自在に活用し、協働的に学ぶ姿が見られた。

この撮影を機に、小川中学校では、授業の様子を記録した動画を校内の授業研究会に活用することも検討されている。個々の生徒の追究の様子を見合い、生徒の意識に沿った支援の在り方等について意見交換することを通して、今後更に、クラウドを活用した「個別最適で協働的な学び」が日常的に、どの教科においても展開されるよう、取り組んでいる。



【クラウド上の情報を基に議論する】